

最期^{まで}で自分らしく「元気なうちに話し合いを」

性がある。どう選んでも後悔するかもしれない」と説明。

希望や思いは変わるため、一度だけ話し合えばいいというわけではなく、繰り返しすることも大切。しかし「やっぱり考えたくないというのも自然なこと」という。最期をどこで迎えたいか」など重たいことではなく、最初は「生きがい」や「心配なこと」など「相手に抵抗のないことを」と提案した。

エンディングノートの活用にもふれ「話し合い、思いを伝えましょう。自分自身のために、大切な人のために」と呼び掛けた。

(菊)



北見赤十字病院「明日を考え支援する会」の講演会

北見赤十字病院の明日を考え支援する会の講演会「話し合いましょう！大切にしてきたこと、思いがありますが、話生きがいとなっていること」が4日、同院で

開かれた。同院第一循環器内科部長の斉藤高彦医師を講師に、市民ら約70人が参加した。最期まで自分らしく生きるため、大切な人がつらい思いをしない

ために「元気なうちに先々のことを本人、家族、医療者で話し合っ

ておいた方がいい。人にはさまざまな事情や思いがありますが、話さないで伝わりません」と語った。

突然の病気で意識が低下して話せなくなるなど、家族などが本人の代わりに治療方法を選ぶことになる。「本人の代わりに決める人も、つらい思いをする可能

エンディングノートの活用も呼び掛け

エンディングノートの活用にもふれ「話し合い、思いを伝えましょう。自分自身のために、大切な人のために」と呼び掛けた。